

第39回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：令和4年6月13日（月） 14：00～16：00

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

1. 取り出し規模の更なる拡大に向けた工法の検討状況について

東京電力から取り出し規模の更なる拡大に向けた工法の検討状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○工法を検討する上ではバウンダリが重要であることから破損した場合のバックアップも含めて検討することが肝要である。

○燃料デブリ取り出し完了後に原子炉圧力容器や原子炉格納容器等の解体が必要となることも念頭において工法の検討を進めることが重要である。

2. 戦略プラン 2022（デブリパート）要旨案について

NDF から戦略プラン 2022（デブリパート）要旨案について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

○燃料デブリ取り出しは廃棄物や分析とも関連があるので、全体を示した上で燃料デブリのパートについて議論することが重要である。

3. 国プロ関係進捗状況、2年目実施計画の報告について

IRID 及び IHI から国プロ関係進捗状況、2年目実施計画の報告について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

①遠隔装置保守の技術開発について

○燃料デブリ取り出しを行うのは遠隔装置で、その遠隔装置を保守するのも遠隔装置である。それぞれの遠隔装置に対して、保守に対する共通的な設計思想を体系的にまとめることが重要である。

○保守装置が壊れた場合、遠隔で保守するのか、直接保守するのか、その際の条件等を整理することが重要である。

②PCV 内連続監視の技術開発について

○計測対象には時間的に変化していくパラメータがあるので、そのようなパラメータについては将来を予測した検討の実施も重要である。

以上